

社会科の窓 VOL 3

令和3年5月25日

京都市立稻荷小学校 校長 吉山 茂樹

「選択単元、どうして選んだらいいですか?」(5年)

5年生は、我が国の国土の様子を捉え、特色を考えます。



日本の地形は、細長く弓のようです。
海に囲まれています。
4つの大きな島と、
たくさん小さな島があります。
外国と領土の問題があります。

大まかに日本の地形の様子をつかんだ後、「自然条件から見て特色ある地域」を取り上げます。これが、

低い土地（岐阜県海津市）↔ 高い土地（群馬県嬬恋市）

さらに、日本の気候の特色を学んだあと、

暖かい土地の暮らし（沖縄県）↔ 寒い土地の暮らし（北海道）

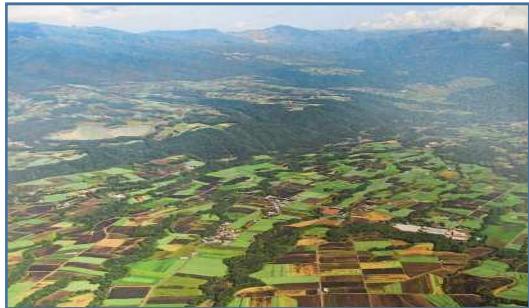
を学習します。学習指導要領には、どちらか一方を選んで取り上げると書いてあるのです。学習時間のこともあるでしょう。それよりも、今の教育は「学び方」を学べば、必ず応用・転移できるという考えもあります。

さて、そこで、最初の質問です。どちらを選べばいいでしょう。何を根拠に選びますか。私がこの「社会科の窓」で、お伝えしている通り、子どもにとってどちらの事例の方が身近に感じられるかで考えてみてください。学校がある地域や子どもの実態によっても違うでしょう。

選択の視点は、最初のページに出てくる写真を見比べてみましょう。



大きな川がある。
作物を作るのに役に立つ。
飲み水にも困らないな。
でも、水害とか大丈夫かな？



田んぼや畑のようなのが
たくさんあるよ。
どんな作物が、とれるかな？

社会科では、1枚の写真から、気付いたこと分かったことを見付ける活動は、大変重要です。その気付きが、追究活動の柱になるのです。吹き出しの中を読んでもらってお分かりのように、「低い土地のくらし」の方では、1枚の写真からその土地の利点と心配事の両方が見付けられます。したがって、私がお薦めするのは、「低い土地のくらし」です。さらに、教科書にのっている「三つの川が集まる地域の土地の高さ」の資料を示すと、さらに子どもたちは、水害の心配がある中、低い土地に暮らす人々は、どのような工夫や努力をしたのか考えるという流れになります。



こうした低い土地のことを「輪中」と呼ぶんだ。
水害に合わないように、
堤防をつくっているのかな？
家にも工夫があるのかな？

調べていこう！



洪水で家が危ない時、
高いところに建てた
「水屋」に避難するんだ。



訓練などもしているんだ。
水を生かした生活も、
何かあるはずだ！

次回は、「暖かい土地のくらし」と「寒い土地のくらし」の選択の観点について、考えていきます。くり返しになりますが、どちらを選ぶかは、あくまでも私の私見なので、地域や児童の実態を踏まえて選んでください。